



(写真) NRI 上海の葉華と専門家委員会就任の証書

天津経済技術開発区（通称「泰達」TEDA）は 1984 年に設立され、中国の改革開放経済の牽引役として常にトップを走っています。TEDA 専門家委員会の委員を務める NRI 上海 副董事長の葉華が発展を続ける TEDA について語ります。

### 天津経済技術開発区（TEDA）と NRI の関わり

TEDA は北京・天津・河北都市圏に隣接し、東北三省を臨む環渤海経済圏にある、中国最初の国家クラス開発区の一つです。1984 年の設立後の 10 年目にあたる 1995 年にさらなる発展の充実を図るため、NRI がコンサルテーションを行いました。この時のプロジェクトで、軌道系交通（鉄道やモノレールなど）や物流を含め、外資誘導にむけて必要となる機能を吟味し、当時の中国としては先進的な都市機能の充実を図りました。

当時は外資誘導のための税制などの優遇策については盛んに議論されましたが、都市を形成するという発想でビジョンを創る開発区はありませんでした。その時のプロジェクトは非常に好評で、現在では GDP ベースでも中国最大規模、トヨタをはじめ日本企業だけでも **370 社** が投資する、中国の中でも非常に成功した開発区としての地位を築いています。



その後も TEDA との良好な関係は続き、2005 年には TEDA の北側の濱海新区を含めたより広域な都市づくりと新産業コンプレックス形成のための新ビジョン策定、07 年には次の TEDA 幹部を育成するトレーニングも行いました。

### TEDA 専門家委員会発足の経緯と、TEDA との関わりについて

成長のゆがみが地域格差となって現れている中国において、TEDA は中国の国家ビジョンである“和諧社会の建設”にむけた中国北部の中核都市としての役割がますます高まっています。従来の加工組立産業を中心とする製造業から脱皮し、より付加価値の高いサービス

を提供する高度な都市型産業の導入が掲げられています。具体的には、陸海空を結ぶ物流業、また企業の資金ニーズに応える金融サービス業などの育成です。TEDA ではこれを「新経済プラットフォーム」と呼んでいます。

中国ではこれまで経験したことがない発展目標だったため、外部の力を借りるために TEDA 管理委員会のもとに「TEDA 専門家委員会」が発足されました。委員には、主に中国全土から学界や産業界関係者が集められていて、外資系コンサルティング会社からただ一人、私が就任しています。



(写真) TEDA 専門家委員会のメンバー (中列左から 4 番目が葉華)

北京金融街 (Financial Street) の総責任者、政府系デベロッパーのトップ、中国の都市づくりの専門家など、幅広い分野から専門家が集められ、年 2 回開催される総会の場で TEDA の重要な方針の審議を行ったり、TEDA が外部に委託したプロジェクトを第三者の立場から評価するなどして、TEDA の発展を支援しています。



多彩な顔ぶれによる委員会での議論や発言は、非常に実務的な話が多く、私にとっても非常に有益な機会と捉えています。委員を引き受けるに当たり、私はあくまで個人の専門家として発言し、NRI や NRI 上海の組織を代表していないという立場を明確にして活動していますが、最新情報を把握し、重要なタイミングをキャッチするアンテナとなって、NRI の提案活動やプロジェクトに繋がっていく架け橋になればと思います。